

第 9 5 6 回

臨時教育委員会会議録

日 時 令和 8 年 3 月 1 2 日（木） 1 4 : 0 0 ～

場 所 教育長室（オンライン）

益田市教育委員会

第 9 5 6 回 教育委員会臨時会

招集年月日 令和 8 年 3 月 1 2 日（木） 1 4 : 0 0 ～

招 集 場 所 教育長室（オンライン）

議 事 日 程

第 1 協 議

（１）教育職員に関する業務量・健康確保措置実施計画について

（２）その他

出席者

教育委員会

教 育 長
教 育 委 員
教 育 委 員
教 育 委 員

領 家 芳 明
原 田 笑
山 本 ひとみ
森 脇 達 也

事務局職員

学 校 教 育 課 長
学 校 教 育 課 参 事

田 原 正 紀
杉 原 貴 宏

領家教育長

ただいまから令和7年度第956回益田市教育委員会臨時会を開催いたします。本日はオンラインによる臨時会となっておりますので、通信状況により会話の途中で途切れることなどがありましたら御理解いただくとともに、委員の皆様におかれましても、聞こえないなどありましたら調整しながらやっていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

では、事務局によりメールにて送信しています資料に基づいてまいります。

第1 協議

(1) 教育職員に関する業務量・健康確保措置実施計画について

領家教育長

それでは、協議事項、教育職員に関する業務量・健康確保措置実施計画について事務局より説明を求めます。

杉原学校教育課参事

それでは、送付いたしました資料を見ていただきまして、最後のところに、国から出された資料で右肩に別添3の2、別添4と書いてあるものがありますが、その資料を見ていただければと思います。

皆さん御存じだと思いますが、公立義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法等の改正が今年度に行われました。

これによりまして大きく3つ改正の概要がございまして、1つ目が学校における働き方改革の一層の推進、それから組織的な学校運営及び指導の促進、それから教員の処遇の改善です。教員の処遇の改善は、教職調整額が現在4%というのが年度ごとに1%ずつ上がって、令和13年に10%になるというものでございます。今回は、一番初めに申しました学校における働き方改革の一層の推進ということで、服務監督者、いわゆる各市町の教育委員会で、先ほどございました教職員に関する業務量管理、健康確保措置実施計画を策定するということになっています。

それでは、国の資料別添3の2の真ん中に国の目標が書いてございます。国では、1か月の時間外在校等時間を平均30時間程度に削減すること、それから80時間を超える教職員を早急になくすこと、下記の水準を満たしているということで、1か月45時間以下の教職員100%、それから1年間の時間外の平均を30時間にする、それから1年間在校等時間が360時間以下で、併せて可能な限り教育職員のワーク・ライフ・バランスや働きがい等に関する目標を立てなさいとなっております。

これを受けて、島根県の資料を概要版でつけさせていただきます。

した。4ページ物になっていますが、その1ページ目に島根県の目標がございます。今回、県の目標としましては、1番が時間外在校等時間については全ての教育職員が年間360時間以内、それから全ての教育職員が1か月45時間以内、それから年次有給休暇の取得日数については、全ての教職員が年5日以上取得、それから教育職員が平均年給の取得日数を17日以上、それから3つ目に働き方に関するところで、意識のところで働きやすい職場であると回答した教育職員90%以上、それから教職にやりがいを感じると回答した教育職員が90%以上という目標を設定されました。

これを受けまして、益田市でも業務量管理、健康確保措置実施計画を策定しまして、今日は委員の皆さんにいろいろと御意見いただければと思っています。

では、益田市の案の5ページになりますが、目標のところを御覧ください。国、県の目標を見まして、益田市としましてはこの大きく3つの目標を考えています。

1つは、時間外在校等時間に関する目標として、1年間の在校等時間を360時間以内にする。それから1か月を45時間以内にする。1年間で360時間、1か月にすると大体平均は30時間となりますが、やはり年度初め、それから体育祭、運動会の時期はどうしても繁忙期ということで30時間はなかなか難しいという実情がございます。あわせて、夏季休業や冬季休業等がある月に関しましては時間外がぐぐっと減りますので、全体としては360時間ということですが、1か月は45時間以内にしようという目標を考えております。

2つ目の年次有給休暇の取得日数に関してですが、これは地方自治体でも課せられていますが、全ての教育職員が年5日以上取得、これを目指そうということを考えています。

3つ目はワーク・ライフ・バランス、働きがい等に関する目標といたしまして、先ほど県は90%以上となっていました。見ていただくと、益田市は丸%と書いてございます。これについては、委員の皆様は何%ぐらいがちょうどいいのか御意見をいただけたらと思っています。

あわせて、この目標を達成するために市として何ができるか、6ページ、7ページので市の取り組みを上げさせていただいています。先ほど、国から出されました業務の3分類、これを踏まえた見直しで、まず1番に学校以外が担うべき業務といたしまして、上の3つは今現在も継続して行っているもので、プラスしてこれからは

この下の2つを行っていくということです。

1つは、登下校時の通学路における日常的な見守り活動、これを地域や保護者にお願いできたらと。それから、教育委員会主催研修を見直し、教育委員会主催の研修は結構多くございますので、その回数、内容を少し考えていこうというところです。

2つ目の教師以外が積極的に参画すべき業務ということで、上の2つに関しては今取り組んでいます、その下の3つはこれから取り組むべきことになります。

1つは部活動です。令和9年で、もう方針が出ておりますが、休日の部活動を地域展開するということを目指して、それから平日も広げていくということでございます。それから、ICT機器、ネットワーク設備の日常的な保守管理、これを益田市内の契約業者をお願いをいたしまして、教育委員会と連携を取りながら、学校にお任せするのではなくて、極力こちらでできることはやっていこうと。

2つ目ですが、国で教頭マネジメント支援員配置事業というものがございます。どうしても時間外勤務、教頭がかなり多く時間を割いている状況がございますので、この国の事業に手を挙げ、規模の大きい学校に極力入れていきたいと考えています。

3つ目は、教師の業務だが負担軽減を促進すべき業務ということで、上の3つは今までどおりでございますが、下の3つが新たに加わるもので、これは総合戦略にもございますが、コミュニティ・スクールの導入促進を図っていききたい。

校務DXの導入の検討、これは県内で統一した校務DXを導入する動きが出ていまして、益田市としましても令和12年度に向けてその体制に入りたいと考えて、DX化を進めていきたいと考えています。

最後が校内教育支援センター支援員の配置です。今、不登校、不登校傾向の児童・生徒が随分増えている状況でございます。各学校に校内教育支援センター、いわゆる不登校の子が通える部屋を準備していますが、そこに支援員を、現在この配置になっていますが、来年度新たに中学校1校に配置をして、これからできれば少しずつ増やしていけるといいという考えを持っています。

益田市の目標と、益田市の取り組む措置の内容です。こちらに教育委員の皆さんの御意見をいただければと思っていますので、よろしく願いいたします

領家教育長

2つ目が、実施する業務管理、健康確保措置の内容という6、7ページのところで、今やっていることは当然引き続いてやるもので

すが、新しく取り組むこと、もっとこのようなことに支援の手がいけばもっといいことがあるのではないかという忌憚のない御意見を次の２つ目の話し合いでしていただいて、最後総括的にいろいろお考えがありましたらお話をいただく形で、今から４０分進めてまいろうと思うのですが、よろしいでしょうか。

それでは、先ほどありました資料の５ページを見ていただいて、この３つの目標、時間外在校等時間に関する目標、年次有給休暇の取得日数に関する目標、最後、問いかけもありましたが、ワーク・ライフ・バランスや働きがい等に関する目標のパーセンテージを益田市としてはどんな形で設定したらいいのかというところにつきまして、皆様方の忌憚のない御意見をいただければと思うのですが、思いついたところ、どこからでも結構ですので、お考えがありましたらお知らせいただけたらと思います。最初、森脇委員からいきましようか。

森脇委員 ９０というのは高い数字ですが、ここまで国も求めているということで、９０を目指したらいいのではないかと私は思いますが。

領家教育長 いや、国は求めています。

森脇委員 国ではないのですか。

領家教育長 県です。

森脇委員 県ですか。では、益田市だけ低いのかというのも変な話と私は思いますが、いかがでしょうか。皆様方はどうでしょうか。

山本委員 働きがいに関する目標ですが、現状どのようになっているのでしょうか。

杉原学校教育課参事 令和７年度のデータになりますが、実は、令和７年度は小学校が５８．８％、中学校が５６．３％と働きがいに関する肯定的評価とが出ております。

働きがいのある仕事に関することで、仕事に満足だというものは、次回、令和８年度から新たに評価項目で加わったものになっていますので、働きがいのある仕事だというところが５８％、中学校は５６％という状況でございます。

領家教育長 ちなみに、ストレスチェックを今年度からやっているのですが、そのストレスチェックの中の項目にあるデータの中から抽出してくるデータだと聞いています。

ですので、現状６０％にいかない５８％、５６％というのが今の益田市の小・中学校の先生方の状況だと理解してください。

山本委員 ９０％というのは、目標として掲げるべきところだとは思いますが、現状がこういった状況であること、また時間外労働、勤務時間を減らしていこうという流れの中で、相反するところもあると思う

と、なかなか90%を達成するというのは厳しいという気がします。計画としてその高い目標を掲げるのか、実質、現状を見て取りあえずそこを「目指す」というのがいいか、どちらの方向が良いのかということを教育委員の皆さんに聞いてみたいと思います。

原田委員　私も先ほどの数字を踏まえてなのですが、もちろん高い目標は必要だと思うのですが、2年後に見直しがある　ということであれば、一旦90%ではなくて、もう少し現実的な80%ぐらいにしてみてもいいのかと思い、見直しのときに現状を見て上げていけばいいのかと思ったのは、目標ばかり高く設定して、中身が伴っていなければ余計にやる気をそぐことにならないかという不安があり、そのように思いました。

森脇委員　難しいところで、働きがいのある仕事だということに丸をしていない要因は何なのかというところが少し分かりにくいかと思います。80でも90でもどちらでもいいのですがという表現をしてはいけないのですが、恐らく到達はなかなか難しいだろうなとは思いますが。何を改善すればその目標、その数字を超えるぐらいまで課題解決ができるのかというところが見えてこないと少し厳しいのかと。ただ単に、イエス、ノーだけでは困るなと。困ると言ったらおかしいが、打つ手がないかなというところは若干感じますので。

ただ、原田委員さんの言われたように、2年後の見直しをイメージすることを考えていくことを確認できたらいいのかとは思いますが。何がその阻害要因なのかというところをもう少し分析的にしていかないと、改良の余地がないというか。

領家教育長　働きがいのある仕事だと思っている職員が90%もいる職場が本当に職場としていい職場なのだろうか、ということを管理職としては思います。教育ビジョンでは、「対話」がつなぎ「対話」で広げるひととまちの多様性だ、可能性だと言っている。多様性を認めている中で、9割の職員にこの職場で働くことがいいとプレッシャーをかけることと、私はもっと働きたいので長く学校にいたいと思う職員もいたりすると思うので、そのあたりのバランス感覚を上手に取ってあげないと、知らないが正解だけを求められる、そのようになってしまうと、それが逆に子どもたちにどんな影響を与えるのかということが若干気になるところです。

ですので、360時間以内とすると言い切るのがいいのか、国が言っているように45時間、100%を目指すことでいいのかということも含めて、これを見て実際に働く現場の教職員が何を感じるかを少し考えたほうがいいと思うのですが、いかがでしょうか。

原田委員　教育長さんがおっしゃった意見に全面的に共感するのですが、本

当に一般企業であったとしても90%以上の会社はないのではないかと思いますし、本当に部活動を働きがいと感じている人にとっては、今のこの現状というのは多分苦しい状況になると思いますし、授業の準備をもっとやりたいのに帰れと言われている先生もいるかもしれないし、一くくりにしてしまうのはすごく難しい中で、数字だけ出すというのは本当に難しいなと思います。

ですので、どこまで国、県に合わせないといけないのかというのもあるのですが、先ほど教えていただいた益田市のパーセンテージと併せて島根県全体のパーセンテージは分かるのですか。それが比較できれば少しは数字を出すための根拠になるかとも思うのですが。

杉原学校教育課参事 県が聞いている内容が少し違うのですが、ワーク・ライフ・バランスが取れていると感じる教職員の割合というところで、毎年取っておられるのですが、令和6年で61%、令和7年で67.1%となっています。

領家教育長 取っている項目が微妙に違うのですが、来年度以降はこの働きがいがあるという項目で取るように県も聞いています。

ですので、やはり6割や7割に満たないところで県全体も出ているのが実情ではあると思って、県は多分それで90%という目標を設定されたと思うのですが、片や私たちはどうすればいいのかというところです。働きがいのある仕事だと回答した教職員、何%程度を最初の2年間で目指すのかという話だと思うのですが。

山本委員 教育長さんも原田委員さんも言われましたが、本当に何をもって働きがいのある職場だと感じるのか、そういったことはお一人お一人やはり違うというところがあるのと、それから現状もまだなかなかはっきり掴めていない状況の中で、90%というのは非常に高い、実現は厳しい目標という思いがあります。先ほど58.8%、56.3%という数字が出ましたが、やはり現状を改善していくところを前面に出していくか、数字的に出さないといけないとするととなるとやはり80%というのが説得力ある数字かと思っています。

領家教育長 数字を出すか改善のポイントを何ポイントぐらい上げるかを目標にするというのも一つの手ではないかという御意見のようにも伺いました。

山本委員 この目標を掲げるに当たって、後に改善策も出てくると思うのですが、その改善策と目標というのはリンクしているのでしょうか。

杉原学校教育課参事 時間外の在校等時間に関する時間的なものに関しては、リンクしているところが多くあるかと思っていますが、この働きがいのとこ

ろで、それにマッチした施策があるかというところ、少し難しいかもしれないかというところがあります。

現在、どちらかというところ業務量をいかに抑えるのか、いかにサポートをしていくか、今負荷がかかっている調査や研修を減らすという形になるので、この働きがいと合ったという施策は、今のところ考えていないかと思っています。

山本委員 こちらの働きがい等に関する目標に関しては、何がそれを阻害しているのかという現状が分からない中でのこの計画策定なので、なかなかその対策を考えるのが難しい状況であるということは理解しているところです。ということになれば、この2年間は改善することということで、様々な施策を進めていく中で、本当に益田市が目指すべき数字というのを考えていくのもいいのかと思っています。

この2年後の評価までについては、改善する方向とし、それを何%程度の改善とするかというところのもまた数字を考えなければいけないですが、そのようにしてもいいのではないかと思っています。

領家教育長 併せて施策の中にも働きがいのある仕事だと感じられる要因や、そのものをしっかり分析するなど、そういうことも必要で、それに併せ応じた、的を射た施策を打っていくなど、取り組みを仕組んでいくことをこの2年間の中で取り組む方向がいいのかという御意見だと聞いてもいいですか。

山本委員 そうですね。本当に現状を分析するというところも一つ必要なかと思いました。

領家教育長 あえて何%以上とするというよりも、しっかり分析して、そういう思いを持つ教職員のポイントを何ポイント上げるかという目標が現実的ですし、それが本当に職員のやりがいや気持ちにつながる目標になるのではないかというように承りましたが、よろしいですか。

森脇委員、分析も含めてとおっしゃっていましたが、いかがでしょうか。

森脇委員 県の質問項目、1 ページ目の部分が働きやすい職場であるというのが90%以上ですね。それから、教職にやりがいを感じるが90%以上ですが、今回ここに例示してあるのが、今までのデータとの兼ね合いもあると思うのですが、微妙にその質問項目が違います。特に、上側の働きやすい職場であると働きがいがある仕事というのが少しリンクしていないというか。働きやすい職場であるというのは様々な改善策は非常に打ちやすいのではないかと。いろいろ校務支援の方を配置する、教員がやっていた仕事を外にお任せするなど働きやすくなると思うのですが、働きがいのある仕事を

つくり出そうと思うと結構難しいのではないかという気がします
が、このあたりの、質問項目は県に合わせたほうがいいのではない
かと思いますが、いかがでしょうか。

田原学校教育課長 今回のストレスチェックなのですが、令和7年度から実施をした
ところでして、その方法については公立学校共済組合にストレスチ
ェックを委託して調査をしたところでございます。

そのストレスチェックに係る質問項目については教育委員会の意
向がどこまで個別に反映してもらえるのかというところが少し気にな
ってしまして、公立学校共済組合が一律でもう質問項目を定めら
れていて、そこに裁量の余地がないことも想定をされています。と
いうのも、今回ストレスチェックの結果について資料の提出を我々
は受けているわけですが、そのまとめ方の中に、公立学校共
済がストレスチェックを実施している全ての団体の数値も実は出て
いまして、それとの比較、益田市教育委員会の数値との比較ができ
るように実は集計がされておりました。

ということから、質問項目については統一されているのではない
のかという懸念を持ってしまして、そうするとなかなかこちら側の
裁量というか、希望する質問が調査に反映できないこともあるのか
ということ今少し懸念をしています。

領家教育長 森脇委員の御指摘のある県の分と合わせるというのは、少し難し
い状況があるという理解でいいですか。

田原学校教育課長 はい。

領家教育長 別に取るか取らないかということも含めて考えればいいと思うの
で、そのあたりも踏まえながら、県に合わせるのか、それとも益田
市独自項目でやってしまうのか、結局要は先生方がやりがいや働き
やすさなどを感じてもらえる職場にしていこうということに向いて
いくことが一番だと思うので、できる形で、無理のない形で進めて
いければと思っています。

そこを踏まえると、山本委員御提案の形のところを、まず何%以
上というのはやめて、取りあえず2年間で何ポイントを目指すな
ど、そういった流れの目標をつくらさせていただくということで、
皆さんいかがでしょうか。

教育委員 =全員了承=

領家教育長 それでは次回18日の総合教育会議までで案をつくって、皆様方
にお送りするという形で進めさせてもらおうということで、御了解し
ていただいてよろしいですか。

教育委員 =全員了承=

領家教育長 先ほど途中で申しました時間外在校時間等に関する目標も、いき

なり以内とするのがいいのか、を目指すという言葉にしたほうがいいのかということ、実は現場の校長先生からも少しそういう声が上がっているということ、杉原参事からの情報をいただいているところなのですが、しかし県は、とするととしていて、国は目指すとしています。益田市はどちらがいいのか、皆さんに少し意見を聞きながら、市長と相談、また総合教育会議で議論する中でも少しそのあたりは話題にしていこうかと思っているのですが、いかがでしょうか。

原田委員 私は、目指すがいいのではないかと思います。いろいろな状況整理とか環境の改善が必要な中で、いろいろな不満があるようにも思いますし、その逃げ道として少し残すことで、そういうものの受皿にもなるのではないかと思います。

山本委員 私も、目指すがいいと思います。2年後にまた見直しもあるかと思うのですが、その中で、以内にすると言い切るのは、学校現場の皆さんもなかなか大変なのではないかと思います。

森脇委員 チェックをどうかけていくかなど、そのあたりをもう少しはっきりさせて、45時間を超えた方に対するケア、それから当然管理職等はその実態は知ってもらわないと困るわけなので、そのあたり管理職との連携や、教育委員会として対応をある程度考えておく。教育委員会としてはこういった方に対する、あるいは超えそうな方に対する方策は少し詰めておく必要があるのかとは思っています。

領家教育長 そのあたり、最後の9ページにある関連する取り組みのところ、教育委員会としての思いなどに触れる必要もあるのではないかと思いますので、今日の共有としては、目指すという方向にして、併せてその超える方たちに対するケアの方策も少し5番のところで少し触れていただく文言を入れてもらうということで、今日の会は整理させておいていただければと思います。

次の話題に進めさせていただいて、6ページ、7ページに書いてある内容の新たに取り組むところ、これはやってもらうことはどんどんやらえればいいのかと思うのですが、これは少しやり過ぎではないかということがあれば指摘していただき、もっとこのようなこともやったら現場の皆さん喜ぶのではないかとということ等の御意見がありましたら言っていただきながら、この中身については今度市長と一緒に話すときにしっかり触れたほうがいいと思っているところなので、それらも含めて次回までの持ち越しでも結構ですので、今日は今思いつくこと等があればおっしゃっていただければと思うのですが、いかがでしょうか。

森脇委員 6ページ目の学校以外が担う業務の上から2つ目の四角に、学校

閉庁日の設定があります。学校閉庁日という表現が一般の方には分かりにくいのではないかと思いますので、日直を置かない日という表現が分かりやすいと思いました。

ある学校の先生が、いわゆる秋休みも閉庁日ができないだろうかと、申請等によってということも述べておられましたので、例えば今後の取り組みの中に学校閉庁日の拡充のようなものを入れて、年間5日以上の子休の取得等につながる可能性が広がるのかとも思いましたが。

領家教育長 秋休み、2学期制を取っている学校については、秋休みの閉庁日を増やしていこうという御提案をしてみるということですね。

そのほか、思いついたことで結構ですので、アイデア等ありましたら、実現可能性について、また事務局で検討していただこうと思います。いかがでしょうか。

原田委員 ②の調査・統計等への回答に付随するものなのですが、学校の先生方に伺ったら、授業に割く時間よりも報告書類とか調査書類へのかける時間がすごく多くて、それが負担だという声を聞くのですが、かつ毎年毎年コピペされた資料が回ってきて、本当にそれがその先どういうふうに役立っているのか分からないし、この業務がどういうふうに後につながっていているのか分からないという声もあって、そういうのを見直す、本当に必要なものだけに絞って、本当に必要な回答だけに絞るというような選別作業をしていただけたらどうかと思うのですけれども。

かつ、もっと簡単に10段階の1から5で評価できるものなど。文章で書かないといけないものをきちんと選別して、必要なものだけ残して報告してもらい、かつその報告がどういうふうに役立っているのかを見える化してもらいということができれば、やりがいにつながるのではないかと思います。

田原学校教育課長 おっしゃられているように、必要なものに限ったり、簡略化したり、またそれがどういうふうに役立っているのかということを明らかにすることというのは必要だと思っています。

ただ、調査の種類には、市がやるもの、県がやるもの、国がやるものと、そもそも調査主体が大きく3つぐらいあるのですが、市が実施するものについては、先ほど言ったことに留意しながら対応を検討してまいりたいと考えています。県、国がやるものについては、現場の声をしっかりと益田市として伝えていくことで、何とか国、県に配慮してもらえようようにしてまいりたいと思います。

領家教育長 今のようなことも、その5番のところに書き加えるというのはとても大事なことで、それが現場で働く皆さんへのメッセージにつな

がと思いますので、そこら辺も御指摘いただいたことを加えていければなと思っています。

山本委員 多くの対策を掲げておられて、実際にはすでに実施しておられるところもあると思うのですが、また新たに対策が増えていくというのは大変と思っています。これらの対策をどういうふうに進めるのかと少し心配です。これだけの方策をいかに効率よく効果がある形で進めていくのか、まだなかなか見えてこないのですが、これをやりますという計画なので、やるべきことがたくさんあるなという印象です。

領家教育長 本当はこれが全部学校現場に反映して、いいことにつながればいいのですが、これがあるがゆえに、また余分に慣れないことが増えたりということになっては本末転倒になるので、そのあたりも含めてしっかり精選をし、思いが伝わる計画として、益田市ならではのようないところもあることを少し議論して、作り直せること、整理できることはしていこうかと思っています。

原田委員 人員の確保というところで、負担を減らすために様々な人に頼ることが書いてあるのですが、現状、島根県内でも益田市内でも教職員さえ足りていない状況で、どの職場においても人手が不足している中で、私は本当にこれができるのだろうかという不安が一番大きくて、私でさえそう思っているのだから、きっと現場で働く教員の皆さんも同じように思ってるんじゃないかと思って、人手不足の中でこれだけの人を確保するのは正直難しいと思います。

です。人が足りない中でどうやってやっていくのか考えていけないといけないのではないかと思いますし、それを分かった上でこのように書いていますということも示していかないといけないのではないかと思います。

もう一点が、働き方改革というのは、学校の中にいる間だけの働き方改革になってしまっただけでは意味がないと思っています。学校の中に先生がいる時間を削減します、この時間内にしましょう、学校から帰った後、持って帰ってやっていますということが増えてしまっただけではワーク・ライフ・バランスにつながらないので、それも分かっています。頑張ってもらいたいという意図を伝えないと、また形だけと言われてしまうのではないかと懸念しています。

領家教育長 持ち帰り仕事はなくそうという話ですね。それが1点と、それから人の部分につきましても、免許を持っている職員というのは、今おっしゃっているとおり、ほとんど余力がないですし、配置できないと思うので、市ができる部分というのは免許を持っていない職員

の、いわゆる支援員さんとかサポートスタッフなど、そういったあたりのところですか。それが多分、現場の皆さんには混同してしまっているところもあるので、そのあたりをうまくやっていかないといけないというのを今お聞きしながら思っていました。

市が任用するいわゆるサポートスタッフさん、免許のない部分については、募集をかければ必ず選考して何人かが選ばれるような状況にはなっているので、そのあたりについては、逆にそれをメッセージとして送らないといけないということが、今原田委員のお話聞いていて分かったので、そのあたりも含めて書き方を工夫させてもらおうと、言ってばかりで現状人がいないではないですかとならないことを、安心感も含めたメッセージを少し書き加えないといけないかということを感じましたので、そのあたりは工夫してみようと思っています。

領家教育長 では、今度市長と話をする18日までのところ、少し時間がありますので、またお考え等がありましたら、御意見をいただき、それから18日までに、今日のいただいた御意見も含めてこの計画をもう一度作り直し、たたき直して市長との討論に向かおうと思っていますので、またそれなるべく早めに御提供できるように準備をしてまいろうと思います。

それでは、本日予定していました議事全てが終了いたしましたので、これをもちまして第956回益田市教育委員会臨時会を終了させていただきます。本日はどうもありがとうございました。

＝終了時間 14時45分＝